

平成27年度

中堅・中小企業の新入社員意識調査 結果概要

- 【調査対象】 東京商工会議所が開催した新入社員研修を受講した中堅・中小企業の新入社員949名
- 【調査期間】 平成27年3月31日～4月9日
- 【有効回答】 計948名（男性599名、女性349名）
- 【回答率】 99.9%

学歴別受講者分布

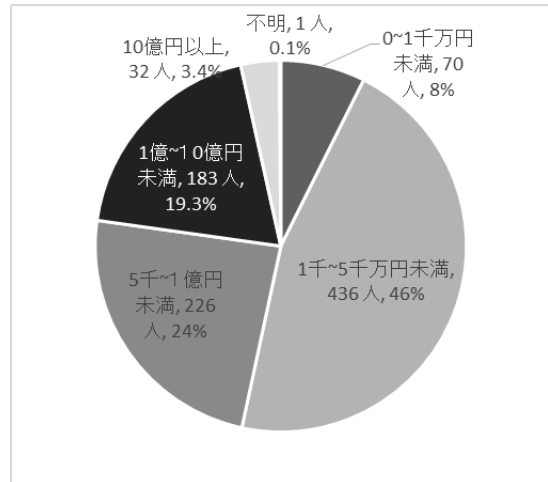
	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
全体	948	100.0%	599	100.0%	349	100.0%
高卒	121	12.8%	86	14.4%	35	10.0%
高専卒	5	0.5%	4	0.7%	1	0.3%
専門学校卒	120	12.7%	80	13.4%	40	11.5%
短大卒	18	1.9%	6	1.0%	12	3.4%
大学（文系）卒	397	41.9%	208	34.7%	189	54.2%
大学（理系）卒	167	17.6%	138	23.0%	29	8.3%
大学院卒	100	10.5%	66	11.0%	34	9.7%
その他	16	1.7%	8	1.3%	8	2.3%
無回答	4	0.4%	3	0.5%	1	0.3%

企業規模（資本金）別受講者分布

	件数	%
全体	948	100.0%
0～1,000万円未満	70	7.4%
1,000～5,000万円未満	436	46.0%
5,000～1億円未満	226	23.8%
1億～10億円未満	183	19.3%
10億円以上	32	3.4%
不明	1	0.1%

企業業種別受講者分布

	件数	%
全体	948	100.0%
小売	23	2.4%
卸売	178	18.8%
製造	182	19.2%
金融	5	0.5%
建設不動産	121	12.8%
資源エネルギー	6	0.6%
貿易	18	1.9%
サービス	175	18.5%
情報産業	166	17.5%
運輸交通	63	6.6%
その他	10	1.1%
不明	1	0.1%



就職歴別受講者分布

	全体		高卒		高専卒		短大卒		大学（文系）卒		大学（理系）卒		大学院卒		その他		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
全体	948	100.0%	121	100.0%	5	100.0%	18	100.0%	397	100.0%	167	100.0%	100	100.0%	16	100.0%	4	100.0%
新卒	822	86.7%	101	83.5%	4	80.0%	17	94.4%	342	86.1%	151	90.4%	88	88.0%	12	75.0%	2	50.0%
既卒 （卒業後3年以内）	50	5.3%	3	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	28	7.1%	8	4.8%	5	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
中途 （就職経験3年未満）	37	3.9%	5	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	20	5.0%	4	2.4%	4	4.0%	0	0.0%	0	0.0%
中途 （就職経験3年以上）	18	1.9%	5	4.1%	1	20.0%	1	5.6%	4	1.0%	2	1.2%	1	1.0%	2	12.5%	0	0.0%
その他	10	1.1%	3	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	2	1.2%	2	2.0%	2	12.5%	0	0.0%
無回答	11	1.2%	4	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%

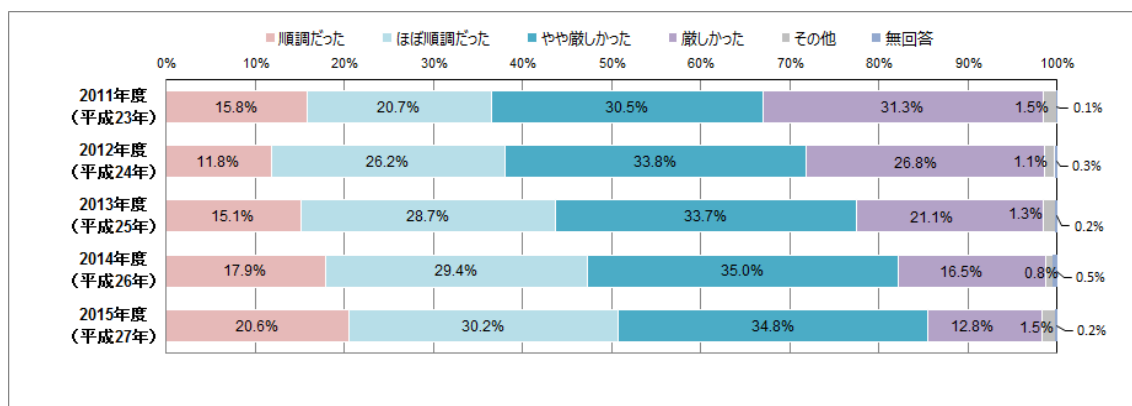
1. 就職活動は順調だったか 【集計結果 P5～11】

⇒全体には顕著な改善傾向が続くが、高卒・専門学校卒よりも大卒者が厳しいとみており、学歴によって感じ方に差も。

○リーマン・ショックの影響と思われる顕著な悪化がみられた平成22年度以降、「順調だった」「ほぼ順調だった」の合計が増加する傾向に変化なし。今年度は平成21年度以来となる過半数の新入社員が、概ね順調に就職活動ができたと回答(47.3%→50.8%)した。「厳しかった」との回答は平成22年度には35.4%だったが、本年度は12.5%と年5%程度ずつ減少している。学生側からみると就職環境の改善が続いていると判断できると同時に、学生の“売り手市場”化が進んでいる、との見方もできる。

高卒(79.3%)、専門学校卒(70.8%)が「順調だった」「ほぼ順調だった」とする一方、大学(文系)卒(57.4%)、大学(理系)卒(58.7%)、大学院卒(50.0%)が「厳しかった」または「やや厳しかった」と回答しており、学歴別にみると有意な差がみられる。Q4の回答を見ると高卒では「学校就職部」で入社した会社を知ったという回答が圧倒的に多く(71.1%)、大学(文系)卒、大学(理系)卒では「求人情報サイト」が多くなっている(各36.0%、36.5%)。大卒では求人情報サイト経由のエントリーシートをはじめとした書類作成数が増え、就職活動にかかる負担感が高まったことも一因として考えられる。

また、就職活動で苦労したことを聞いたQ2を見ると、「会社の求人情報が入手しにくかった」との回答が大学(文系)卒、大学(理系)卒のいずれも増加トレンドにある(各19.4%、22.8%)。人気企業では、会社説明会の時点で予約競争が激化しており、こうした就職活動の環境そのものを厳しかったと捉えている大卒新入社員が多かったのではないかと推察される。



2. 就職活動で苦労したことは何ですか (3つ選んで下さい)

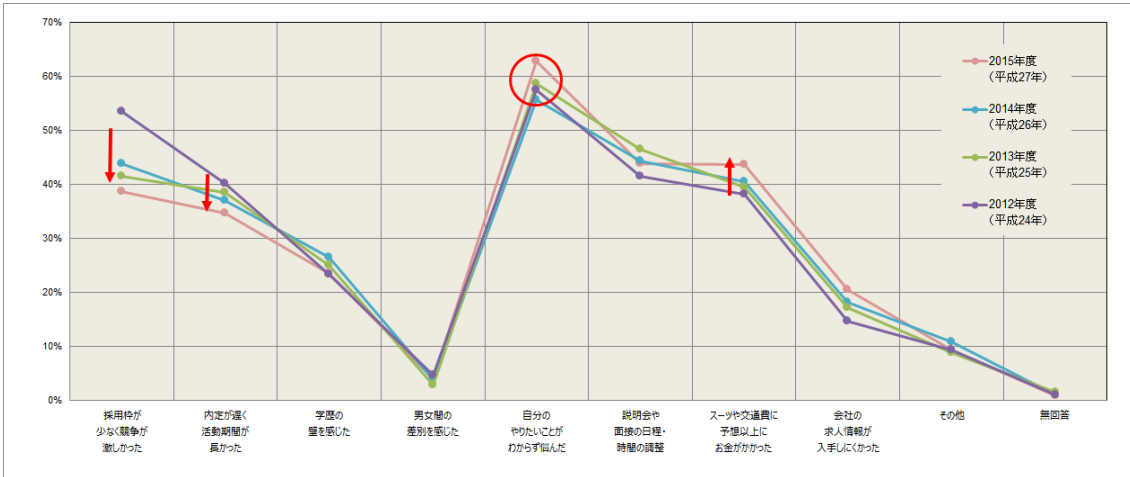
【集計結果 P12～18】

⇒4年連続で自己分析に苦労がトップ。

○「自分のやりたいことがわからず悩んだ」新入社員が4年連続で最も多く(62.8%)、自身の特性・適性を理解するための自己分析に、頭を悩ませる傾向には変化なし。「採用枠が少なく競争が激しかった」は昨年から約5ポイント(43.9%→38.6%)減少。「内定が遅く活動時間が長かった」(34.6%)もトレ

ンドとして減少しており、この設問からも就職環境が学生側に有利となることが読み取れる。

活動期間が短期化する傾向にあるにもかかわらず、「スーツや交通費に予想以上にお金がかかった」との回答（43.6%）がじわじわと増加しつつある。就職活動による勉強・研究への負担だけでなく、経済的な負担を重く感じる学生が増えていると考えられる。事業者にとっては、採用活動中の交通費補助の支給などが志望者増加に寄与する可能性もあり、今後も推移を見ていく必要がある。

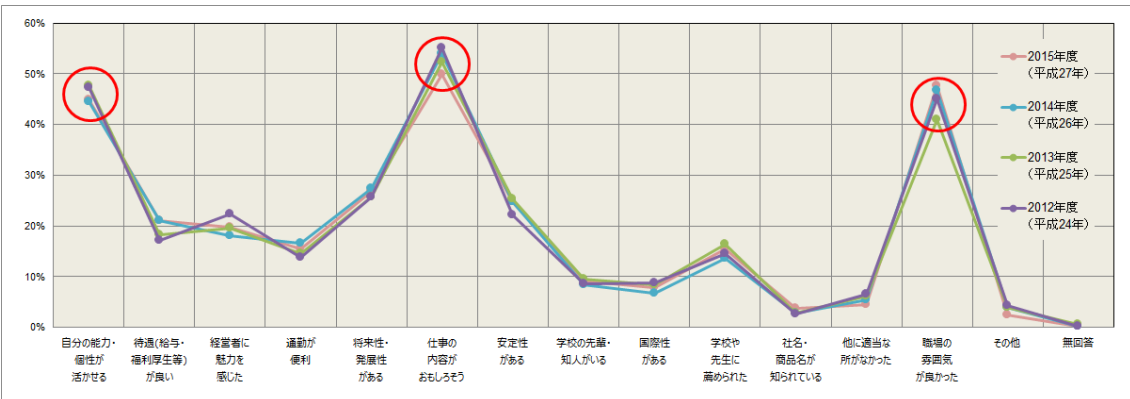


3. 入社した会社を選んだ理由は（3つ選んで下さい）【集計結果 P19～25】

⇒「仕事の内容がおもしろそう」「自分の能力・個性を活かせる」「職場の雰囲気が良かった」の上位回答は変動ないものの、差が小さくなりつつある。

○「仕事の内容がおもしろそう」(49.9%)、「職場の雰囲気が良かった」(47.6%)、「自分の能力・個性を活かせる」(44.9%)、の上位3回答に変動はなく、自分にあった職場環境で能力を発揮したいと考える傾向が定着。「仕事の内容がおもしろそう」は、長年、過半数を超える新入社員が回答していたが、本年度は50%を下回り、その他2項目との差が小さくなりつつある。

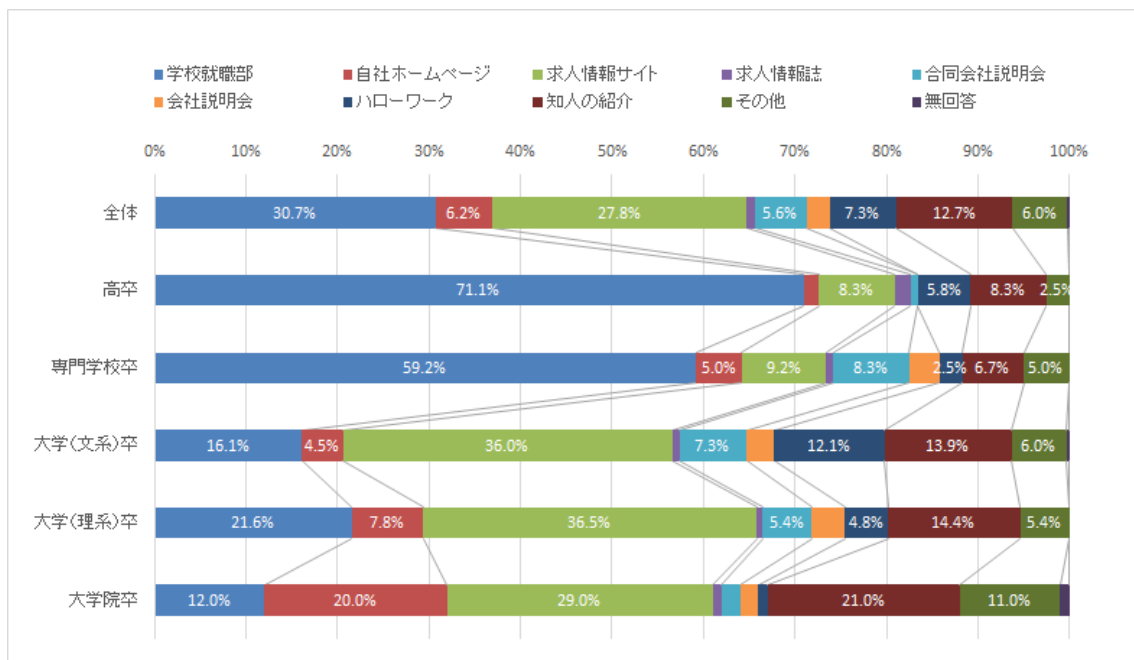
平成24年度から引き続き「職場の雰囲気が良かった」との回答には男女間に顕著な差がみられており（男性：42.1%、女性：57.0%）。女性新入社員の迎え入れや、女性社員の活躍を推進する上で、気さくに話し合い、相談や協力が気構えなくできる職場環境を整備することがポイントになると考えられる。



4. 入社した会社をどのようにして知りましたか【集計結果 P26～33】

⇒回答数首位に「学校就職部」が3年ぶりに返り咲き。特に高学歴層で「知人の紹介」が増加。

○回答者全体では昨年まで2年連続で回答数トップだった「求人情報サイト」が約5ポイント減少(32.3%→27.8%)。「学校就職部」が3年ぶりに首位に返り咲いた。学歴別にみると、高卒者の「学校就職部」回答が大幅に増加(63.1%→71.1%)した。「求人情報サイト」は大学(文系)卒でほぼ横ばい(35.6%→35.0%)、大学(理系)卒で減少(40.7%→36.5%)となる一方、「知人の紹介」は大学(文系)・大学(理系)・大学院卒で増加(それぞれ8.2%→13.9%、9.0%→14.4%、15.5%→21.0%)。全体でも「知人の紹介」が増加(8.2%→12.7%)しており、例年並みの結果となった。



5. 就職活動の期間と内定数【集計結果 P34～50】

⇒倫理憲章改定の影響が続き、大学(理・文系)卒で大学3年時1月～3月期の就職活動開始者が目に見えて増加。大学4年時5月以前の入社(内定)決定も増加し、就職活動の短期化に拍車。

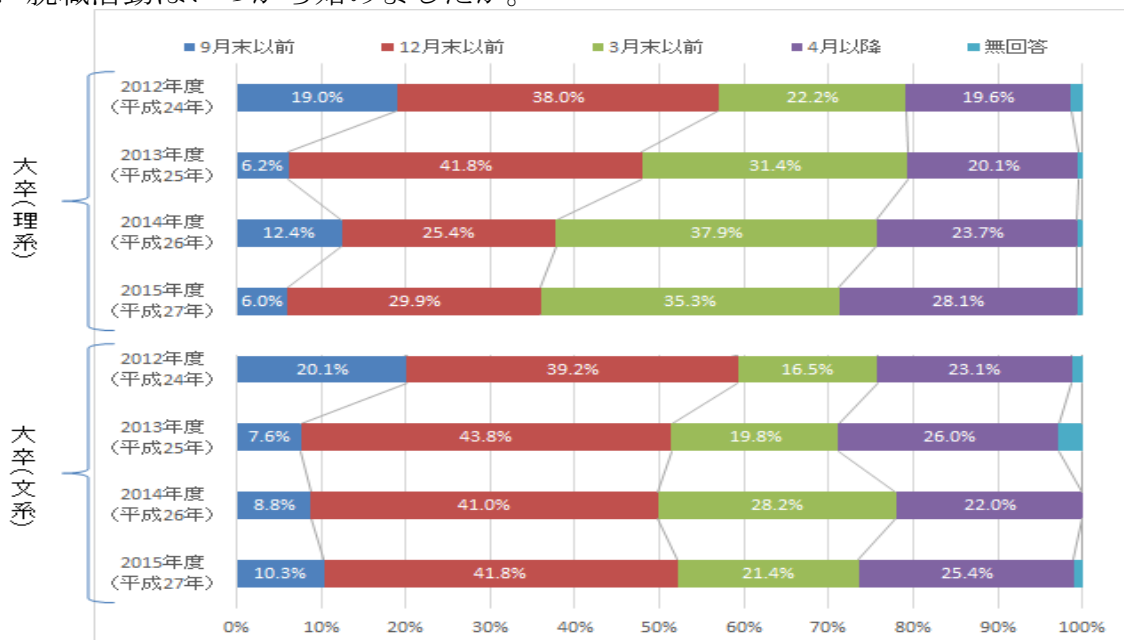
○企業の採用広報活動を2011年12月1日以降に開始することとした学校と経済界の協定改訂により、2013年度入社の新入社員は大きな影響を受けた。改訂3年目を迎えた協定は特に理系の大学卒者に大きな影響を与えているとみられ、2015年度入社の新入社員では、就職活動の開始時期について、「(大学3年の)12月末以前」と早目にスタートを切った割合が3年前の新入社員より大幅に減少(57.0%→35.9%)。一方、文系の大学卒者で「(大学3年の)12月末以前」に就職活動を始めた新入社員の割合が2013年度以降に逡増しており、文系と理系で就職活動への取組み時期に違いが出てきている。

内定時期については、理系の大卒者の半数（50.3%）が7月末までに入社が決まる一方、文系は43.8%にとどまっており、就職活動の開始時期とは逆に“理早文遅”の傾向が見て取れる。

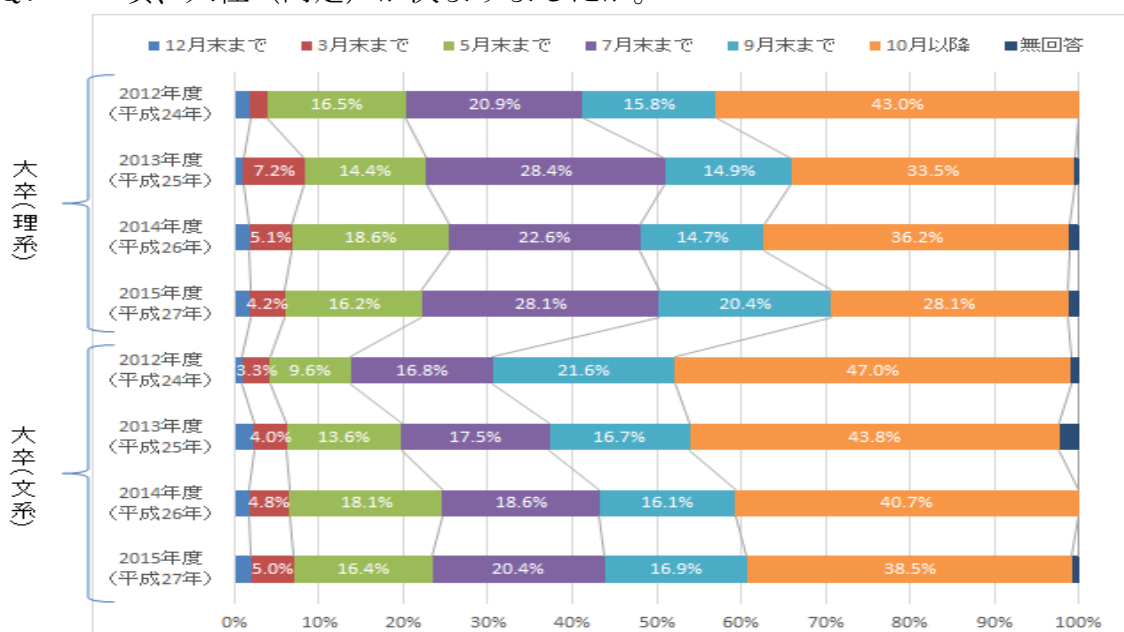
全般的には早期に入社が決める学生が増えており、景況感の改善と人手不足感の増大から、企業の採用意欲が引き続き改善しているものと考えられる。

なお、企業の採用広報活動を2015年3月1日以降に、採用選考活動を8月1日以降に開始することとした、政府による経済界への就職活動開始時期の後ろ倒しの要請が行われている。2016年度入社の新入社員は、本要請に伴う新たな採用スケジュールの対象者となっており、次年度以降の就職活動開始・終結時期に注視する必要がある。

Q. 就職活動はいつから始めましたか。



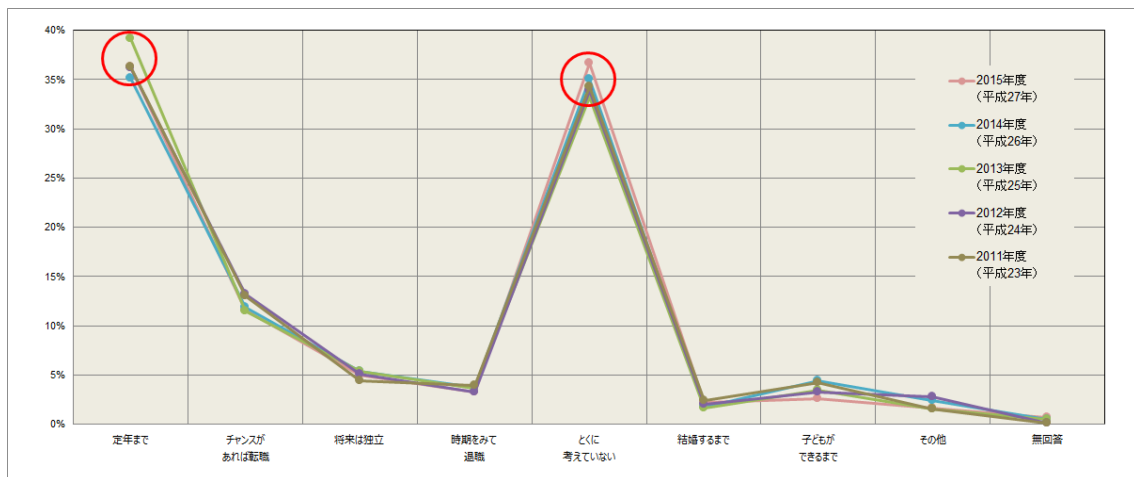
Q. いつ頃、入社（内定）が決まりましたか。



6. 今の会社でいつまで働きたいか【集計結果 P51～56】

⇒「特に考えていない」と「定年まで」で70%超に変動なし。

○「定年まで」(36.3%)「特に考えていない」(36.7%)の上位2回答で70%を占める結果は平成23年度から変わらない。学歴別で見ると、高卒は「定年まで」(47.1%)が多い一方、専門学校卒、大学院卒で「チャンスがあれば転職」(各14.2%、14.0%)「将来は独立」(各10.8%、10.0%)と、キャリアアップへの意欲が高い傾向にある。

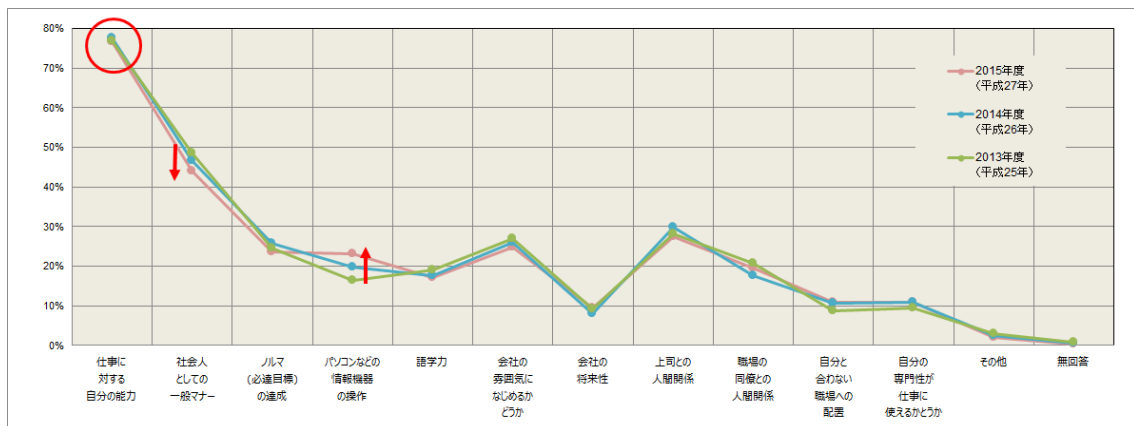


7. 仕事をしていく上での不安 (3つ選んで下さい)【集計結果 P57～63】

⇒ビジネスマナーへの不安感が減少する一方、情報機器の取扱いを不安視する傾向

○「仕事に対する自分の能力」(76.7%)が引き続き飛び抜けて高い。「社会人としての一般マナー」も変わらず2番目の不安材料ではあるが、平成25年度から見て減少傾向(48.6%→44.1%)にある。

平成25年度からのトレンドをみると、「パソコンなどの情報機器の操作」(16.5%→23.2%)が増加しつつある。物心ついたころにはインターネットやパソコンが普及していた“デジタルネイティブ”にもかかわらず、不安を感じている模様。

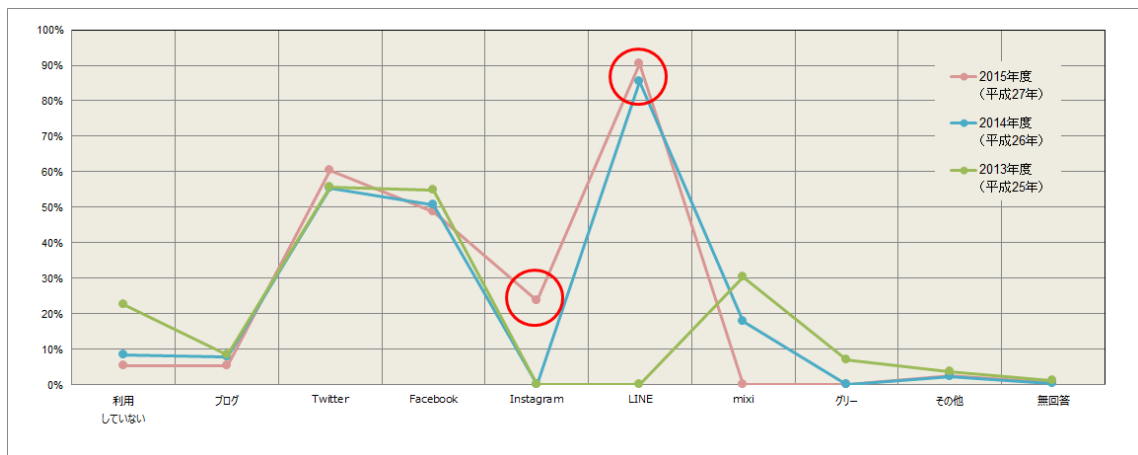


8. 利用しているSNS（複数選択）【集計結果 P64～68】

⇒90%以上がLINEを使用しており、他のSNSを圧倒。女性はほぼ全員が何らかのSNSを活用している。

○LINE（本年より選択肢として追加）の利用者は90.5%となり、新入社員世代で圧倒的なシェアを更に強固なものにしている。SNSを「利用していない」層はわずか5.4%に過ぎず、SNS利用層の中でのLINE利用率は95.7%に上る。今回初めて調査項目としたInstagramは極端にシェアが大きいわけではない（23.6%）が、一定の利用者がいることがうかがえる。

SNSを「利用していない」女性はわずか2.3%（男性：7.2%）であり、平成25年度に比べて性別によるポイント差は縮まったものの、女性の方がコミュニケーションツールを使って他者との交流を行う傾向が強いことがうかがえる。



以上